



「のど仏」ってなぜいうの

のどにあるなん骨

のどの中ほどに、喉頭とよばれる部分があります。ここは、呼吸をしたり、声を出したりするうえで、大切な所です。喉頭のまわりに、甲状なん骨という骨があり、その骨がつき出た所が、のど仏です。のどの仏さま、のどぼね、のどつぶし、などともよばれます。

のどに仏さまがいる

死んだ人を火葬すると、のどの所に、人が座っているような形の骨が、残ります。これを、昔のお坊さんたちが、仏さまのようだと、して、「のど仏」と名付けたと、いわれています。火葬場では、骨を骨つぼに入れるときに、のど仏を、骨のいちばん上へのせるのが、ふつうのようです。

ヨーロッパでは「アダムリンゴ」という

のど仏は、男性のほうが、女性よりも、大きくつき出ています。そのため、ヨーロッパでは、「アダムリンゴ」と、よばれています。『旧約聖書』の「創世記」の巻に出てくる、人類最初の男性のアダムが、禁断の木の実（リンゴ）を食べたとき、神におこられて、びっくりしたため、木の実の半分が、のどにひっかかって、ふくれたのだと、伝えられているからです。（監修・田代 脩）

